

第3期県立高等学校将来構想審議会
高校教育改革検証部会
(第2回)

平成25年1月22日(火曜日)
午前10時から正午まで

1 開 会

○進行 本日はお忙しい中、「第2回高校教育改革検証部会」に御出席いただきましてありがとうございます。

はじめに、会議の成立について御報告を申し上げます。本日は、白幡洋一委員から所用のため欠席する旨の御連絡を頂戴しております。また、太宰明委員から、若干遅れる旨の御連絡を頂戴しております。現在、出席者数は5名ということで、過半数の委員が御出席ですので、県立高等学校将来構審議会条例第5条第2項の規定により、本日の会議は成立しておりますことを御報告いたします。

次に、会議資料の御確認をお願いいたします。次第と出席者名簿のほか、資料1から資料6までお配りしております。

また、会議の進行上のお願いですが、御発言の際には事務局のほうでマイクをお持ちしますので、挙手をお願いしたいと思います。

それでは、ただいまから「第2回高校教育改革検証部会」を開催いたします。

開会にあたりまして、宮城県教育委員会教育次長、伊東昭代より御挨拶を申し上げます。

2 あいさつ

○伊東次長 皆さん、おはようございます。本日は大変お忙しい中、また、お足元の悪い中をお集まりいただきまして、ありがとうございます。

前回の第1回の高校教育改革検証部会におきましては、今後の検証作業の進め方、それから評価指標について御審議をいただいたところでございました。本日は、一部になりますけれども、前回御議論いただきました評価指標に対応する定量データを取りまとめましたので、これを具体的に見ていただきたいというふうに考えております。

中高一貫教育に関しましては、教育庁内にごございます既存のデータを中心にさせていただきます。「男女共学化」及び「全県一学区化」につきましては、第2期の審議会において見ていただいたデータに、新たに平成24年度分のデータを追加する形でお示しする予定とさせていただきます。

たくさん量のデータを見ていただくということになって恐縮でございますが、各施策による現状のアウトラインというものを把握していただきながら、成果・課題の検証につなげていただきたいというふうに考えてございますので、本日もぜひ御忌憚のない御意見をいただきますようお願いを申し上げます。開会の御挨拶とさせていただきます。

本日はどうぞよろしく願いいたします。

○進行 以降につきましては、柴山部会長に議事の進行をお願いしたいと思います。部会長、よろしく願いいたします。

3 議事（１）会議の公開について

○柴山部会長 おはようございます。それでは、早速議事に入りたいと存じます。

「議事（１）会議の公開について」でございます。事務局から説明をお願いします。

○事務局 それでは、資料１の「会議の公開について」を御覧ください。こちらは、県の情報公開条例の規定を抜粋したものでございます。

高校教育改革検証部会の会議につきましては、平成２４年１１月に開催いたしました第１回の部会におきまして、原則「公開」で開催することとし、個人情報などの非開示情報を取り扱うこととなった場合には、その都度、会議の公開の有無を議決することとされました。

今回の部会では、中高一貫教育については議事（２）の②において、また男女共学化及び全県一学区化については議事（３）の②において、具体的な学校別データをお示しし、これに基づいて議論いただくこととしております。事務局といたしましては、これらのデータの中に県の情報公開条例上、非開示情報に当たるものが含まれていると考えており、この点につき御審議をお願いいたします。

非開示情報に当たると考えておりますデータは、２種類ございます。

１つ目は、学校別の「中途退学者」、「不登校者」の人数です。この資料は個人の氏名を表示したのではなく人数のみ記載したのですが、その人数が極めて限られておりますことから、一部の学校についてはこの情報から特定の個人が識別されてしまう恐れがあります。県情報公開条例第８条第１項第２号に該当するため、本資料に基づいて行われる議事（２）の②及び議事（３）の②の審議につきましては、同条例第１９条第１号の規定によりまして、非公開で行うべきと考えております。

２つ目の非開示情報に当たるデータとして、学校別の学力テストの結果がございまして。県立学校の入学者選抜につきましては、学校・学科の特色に応じ、その教育を受けるに足る多様な能力と適性等を積極的に評価することとされておまして、学力検査の結果だけではなく、調査書その他の資料に基づき審査をしております。この学力テストの平均点が学校別に公開された場合に、不用意に学校間の序列化を招く恐れ、また特定の学校に志願者が集中するなど、入学者選抜の適正な執行に支障が生じる恐れがあると考えられます。よって、県情報公開条例第８条第１項第７号に該当し、この資料に基づく議事（２）の②、それから議事（３）の②の審議につきましては、同条例第１９条第１号の規定に基づき、やはり非公開で行うべきと考えております。

以上、よろしく御審議を賜りますようお願いいたします。

○柴山部会長 ただいま事務局から、本日の議事（２）の②及び議事（３）の②については、非公開で実施すべきとの提案がございました。この理由について説明がありましたが、これにつきまして何か御質問・御意見等はございますでしょうか。

意見がないようでございますので、事務局原案のとおり承認することとしてよろしいでしょうか。

(「はい」という声あり)

ありがとうございます。それでは、本日の議事のうち、議事(2)『中高一貫教育』に関する検証についての「②現状の把握(データ分析)」及び議事(3)『男女共学化』及び『全県一学区化』に関する検証についての「②現状の把握(データ分析)」については、非公開で審議を行うこととします。

ただ、議事の進め方は、初めに公開部分を審議しまして、そのあと非公開部分を審議することとしたいと思っておりますので、議事(2)の①を審議後に、議事(3)の①について公開で審議します。そのあと、議事(2)の②及び議事(3)の②を非公開で審議するというようにさせていただきたいと思っております。したがって、傍聴者の皆様におかれましては大変恐縮でございますが、議事(3)の①の審議が終わりましたら御退席をお願いいたたく存じます。よろしくお願いいたします。

3 議事(2)「中高一貫教育」に関する検証について ①評価指標の検討

○柴山部会長 それでは、議事を進めてまいります。「議事(2)『中高一貫教育』に関する検証について」のうち、「①評価指標の検討」について。はじめに事務局から説明をお願いします。

○事務局 それでは、事務局から「議事(2)『中高一貫教育』に関する検証について」のうち、「①評価指標の検討」について御説明いたします。説明に使う資料は、資料2の「中高一貫教育に関する評価指標(案)」になります。

中高一貫教育に関する「評価指標の検討」につきましては、前回、第1回の部会のほうで御議論いただいております。今回お示しする資料2は、前回の部会でいただきました御意見を基に修正を加えたものとなっております。

本日は、前回部会から修正した部分を中心に御説明いたします。資料2のうち下線を引いている箇所が、前回の部会から修正した箇所となっております。

まず、1つ目の修正箇所ですが、検証のチェックポイントの1つ目の「生徒の学校の選択幅は拡大しているか」のうち、検証データの一番右側、「生徒の状況」の一番下にございます学校生活に対する生徒の満足度になります。これは、前回の部会ではチェックポイントの3つ目、「適切な入学者選抜が行われているか」というところのデータとして入っていましたが、前回の部会の中で「生徒の満足度については『適切な入学者選抜が行われているか』で見るとは、『学校の選択幅は拡大しているか』で見たほうがいいのか」という御意見をいただいておりますので、それを踏まえまして、生徒が自分で選択した

学校について満足しているかという視点で、選択幅の拡大の中に生徒の状況のデータとして入れてございます。

2つ目の修正箇所は、一番左の列にあります「検証の視点」の3つ目、「課題が適切に見出され、対応されているか」という点になります。前回の部会の中で、「これまで男女共学化や全県一学区化の検証の中で学校経営について見てきていたので、中高一貫教育の検証においても見たほうがいいのではないか」という御意見をいただいております。そういった御意見を踏まえまして、検証の視点の3つ目に「課題は適切に見出され、対応されているか」という視点を設け、チェックポイントとしては「PDCAサイクルによる学校経営を行うための制度・体制が整備されているか」、「学校の教育活動において、PDCAサイクルの制度・仕組みが有効に活用されているか」といった内容を設定してございます。

3つ目の修正箇所になります。3つ目の修正箇所は、検証データの中の教育庁の取組についてのところで、一部※印を追加しているデータがございまして。欄外に記載しているとおり、「※印をつけた取組は、必要に応じて連携型の中高一貫教育校が設置されている市町村教育委員会の取組も含む」としており、こちらは連携型の中高一貫教育の中学校については市町村が設置者であることから、その取組についても必要なものについては見ていくという趣旨で追加したものでございます。

※印をつけた取組としては、学習指導、進路指導、生徒指導、部活動、特別活動及び教育相談体制の整備に対する学校への支援状況というふうになってございます。

以上、中高一貫教育の評価指標の案につきまして、前回部会から修正した箇所を中心に御説明申し上げました。御協議のほど、よろしく願いいたします。

○柴山部会長 ありがとうございます。

ただいま事務局から、資料2により「評価指標（案）」につきまして、前回の部会の議論を踏まえて修正した部分を中心に説明いただきました。

事務局の説明を参考に、前回の部会に引き続き、今後どのような指標により検証を進めていくべきかといった事項を中心に、御意見を頂戴したいというふうに考えております。

いまから10分程度を目途に、御質問・御意見をお受けしたいと存じます。どなたからでも結構でございますので、よろしく申し上げます。

それでは羽田委員、よろしく申し上げます。

○羽田委員 大変よく整理されていて、わかりやすくなっているかと思うんですが、1点、「適切な入学者選抜が行われているか」という中に、授業の理解度が入っています。それから、2つ下の「基礎的な学力」のところにも授業の理解度が入っています。これらのデータを見たときに、高校の教育にきちんとついていけるような適切な入学者選抜というのは、たぶん1年生の最初の段階を見るところだと思うんですね。さらに、教育指導の結果、出口でどこまで伸びたか。この2つのところを同じデータを使って評価するにせよ、もう少し

細化した表現内容になるのではないかという感じがします。1年生のときに低かったけれども、出口のところ、3年生のときにここができています。適切な入学者選抜と教育指導によってここまで行って、きちんと高校レベルの教育をきちんと身につけたと。そういうふうになると、データは同じであっても作り方ですね。1年生と2年生と3年生の伸び率を見るとか。そういう点で見ていくので、少し細化した表現のほうが分析が緻密（ちみつ）になるように思うんですけども。

○柴山部会長 この辺り、何かそういうのに対応したようなデータはございますか。例えば、「みやぎ学力状況調査」とか。

○事務局 「みやぎ学力状況調査」の「授業がどれくらい理解できるか」という質問項目については、1年生と2年生ということでデータを取っておりまして、それを1年生と2年生を分けて見るということは可能ではあります。

○羽田委員 まさにそのとおりで、資料3の9ページに「みやぎ学力状況調査」があるんですけど、1年生と2年生のデータが混ざっているの、その辺が気になったんです。むしろ分けた方がいいと思います。

3年生は取ってないんですかね。

○事務局 みやぎ学力状況調査では、3年生のデータはとっておりません。

○羽田委員 そうですか。ほかのデータで代替することは可能だと思うんですけど。ぶれ幅がどれくらい拡大しているのか。ぶれ幅があるけれども、上昇しているかとかは分析できる。意識調査だけじゃなくて、学力のデータも使えるかと思うんです。要するに、学年進行でどういうふうに見ていくかという視点が必要ではないかと思います。

○高橋教育企画室長 羽田先生からお話があった学力は、たぶんテストをして、例えば3年生の最後のほうにどのくらい伸びたかと。そういうのが一番ストレートにわかると思うんですけども、そういう制度がないものですからいまのところ1年生と2年生のデータとなります。

中高一貫教育については学校数がそんなに多くないものですから、データの取り方は少し考えてみます。試験のやり方、意識調査を少し変えたようなやり方にするなり、少し検討させていただきたいと思います。

○羽田委員 データを作ることで現場が疲弊するのも困るので、その辺は状況を見る必要があると思います。

教員のほうから見て伸びているかどうかとか、教員に対する調査も大学の場合は結構使えます。これはこれで学校の実態を把握できる。教員に対する調査だと1回で済みますので、いろいろな項目を含めておいて、これでやるというのも一つ考えていいと思います。

○柴山部会長　いまの御意見に補足します。

中高一貫教育の教育効果というか、学校効果というものを把握するためには、中高一貫教育だけを調べているのではなくて、ほぼそれと等質の学校を抽出して、そこで中学校と高校が別な、一貫教育になっていない集団との比較で中高一貫教育の効果というものを見るというのが原則かなというふうに思うんです。ただ、データとして取れるかどうかは、かなり難しいと思います。

それから、使えるデータとしては入学試験です。学力調査というのはあくまでも部分的にしか学力が見られないというのは、そのとおりだと思います。あくまでも限定された状況の中での比較というふうになるかと思うんですが、その最初のところのデータと、できれば高校2年生ぐらいまでのデータの変化を、個人として、あるいは集団として追うということで、中高一貫教育の効果が得られるのではないかなというのはございます。

ほかの委員の方で、何かお気づきの点等がありましたらよろしく願いいたします。

○館田委員　いまおっしゃったこととほとんど同じだったんですけど、やっぱり中高一貫とほかの学校との比較がないと、データを見ても何となく「ああ、そうなのかな」、「そう、ふん」という感じで終わってしまいそうだなと思います。

チラッと見ると、全日制高校の平均も少し載っていたようですので、その辺のデータが使えるのではないかと思います。

あとは、親の観点からすると、中高一貫校に入れると高校受験がないと。受験して3年・3年よりも、6年間のまとまった教育で、学力とか個性がおおらかに伸びていくというような期待もあります。その辺がどんなふうに現実的に実現されているのかということで、中学校3年生の時と出口の本人の意識みたいなもの、通常の受験をする中学3年生との意識の違いがわかるといいかなというふうに感じました。

○柴山部会長　ほかによろしいでしょうか。齋藤委員、何か。

○齋藤委員　齋藤です。

前回、所用があつて欠席したものですから、前回の話とずれてしまつては恐縮かなと思つて、少し言葉を控えていたんですけれども。

中高一貫教育を見るときに、中高一貫だからできること。そういう視点は、どの部分で見られるかなというのを感じております。たぶんトータルで、関わりの中で見ていくことになるのだらうと思うんです。例えば、「施策の目的」のところから「中高を通じて継続的・

系統的な指導を行い」とあるんですが、その「継続的・系統的な指導は中高一貫校だからできた」というのを、どこかで見られたらいいなというふうに感じております。

データとか項目のところのお話ができずにすいません。もう少し詰めたお話しできればいいんですが、そう感じております。

○柴山部会長 確かに、中高一貫教育のそもそもの目的の「一貫して教育する」メリットは何があるかと。単に学力だけではないと思います。その辺りのところも押さえて見ていきたいというふうに思います。

ほかはよろしいでしょうか。

○羽田委員 いまの齋藤委員のお話を受けると、「基礎的な学力を身につけることができるよう」という部分の、取組の特例の活用状況ですよね。このところの把握と、アウトプットの生徒の状況との関係性がどう付けられるかというところ。そこがたぶん一番大きな問題だと思います。つまり、右のほうに出てくる「生徒の状況」はその学校の立地であったり、来る生徒の質であったり。いろいろな要因があったトータルのものなので、この活用状況の結果で何が生じているかということが一義的には出てこない。そこをはっきりさせるような何か。例えば、これはまったく独自に、ここだけになりますけども、生徒の調査の中にその活用状況についての調査項目、どういうふうな反応を持っているかを入れ込むとか。多少調査を工夫しておいたほうがいいかなというふうに思いました。

○柴山部会長 ありがとうございます。

そろそろ予定の時間になりました。ほかに御意見がないようでしたら、ただいまの協議に基づき、検証作業を引き続き進めてまいりたいと思います。

なお、先ほど「中高一貫教育の見方がうまくできるようなものがないか」という御指摘がございましたが、そういったものも含めて、検証作業が進むに連れて軌道修正すべき場面が出てくることがございます。その場合は部会委員の皆様と改めて協議をしながら進めていきたいと存じますので、この点については一応ここまでというふうにさせていただきます。

3 議事(3)「男女共学化」及び「全県一学区化」に関する検証について ①現地調査について

○柴山部会長 それでは、続きまして「議事(3)『男女共学化』及び『全県一学区化』に関する検証」のうち、「①現地調査について」の説明を事務局からお願いします。

○事務局 それでは、事務局から「議事(3)『男女共学化』及び『全県一学区化』に関する検証」のうち、「①現地調査について」を御説明いたします。説明に使う資料は資料4『男

女共学化』及び『全県一学区化』の検証に係る現地調査対象校一覧」になります。

『男女共学化』及び『全県一学区化』の検証に係る現地調査」につきましては、前回、第1回部会におきまして、調査方法、実施時期、調査項目等につきまして御審議いただいております。現地調査のアウトラインについては御了解いただいておりますが、対象校につきましては「対象となった学校がどの選定基準により選ばれたのか」、また「地域バランスはとれているか」といった御意見をいただいておりますので、それらを踏まえまして、対象校と選定基準、地域バランスを表で整理したものが資料4となります。

まず、資料4の真ん中辺りに、「選定基準」として前回部会でお示ししました4つの基準を載せております。

まず、「①男女共学化校」としては、県内17校すべての男女共学化校を対象としてございます。

「②男女比に乖離がある元々の共学校」では、泉館山高校と宮城野高校の2校を対象としております。泉館山高校につきましては、女子生徒の割合が約6割、宮城野高校は女子生徒の割合が約7割となっております。

「③進路指導重点校」という基準につきましては、教育庁で指定してございます進路指導重点校のうち9校を選定してございます。

「④全県一学区化後、特徴的な動きがある学校」としましては、仙台三桜高校と宮城第一高校の2校を対象としております。仙台三桜高校につきましては、同一地区の中学校からの進学割合が低下した学校として、宮城第一高校につきましては、同一地区の中学校からの進学割合が上昇した学校として選定してございます。

また、地域バランスにつきましては、宮城県内の7地域すべてから対象校を選定してございまして、南部地区については2校、中部地区は9校、大崎地区が2校、栗原・登米地区はそれぞれ1校、石巻地区は3校、本吉地区は1校となっております。合わせて19校を調査対象校として考えてございます。

すでに仙台第三高校及び宮城野高校につきましては、先月、現地調査を実施していただいております。残りの17校につきましては、平成25年12月までに順次調査をしていきたいと考えております。

以上が、『男女共学化』及び『全県一学区化』の検証に係る現地調査」について、対象校の整理を中心に御説明いたしました。御協議のほど、よろしく願いいたします。

○柴山部会長 ただいま事務局から、資料4につきまして、前回の部会の議論を踏まえ、「男女共学化」及び「全県一学区化」に関する現地調査対象校の説明がございました。これはある種の抽出調査ということで、前回、「その特徴をバランスよく拾い上げたほうがいいだろう」と。そういうことで、今回、地域として南部、中部、大崎、栗原、登米、石巻、本吉というところ、それから選定基準として4つの特徴をセッティングしていただき、その中でバランスよく高校を抽出していただいたというふうな形になっているかと思っております。

事務局の説明を参考に、いまから10分程度を目安に、現地調査・対象校について議論したいと思います。実際に現地調査に行ってくださいました委員の先生方もいらっしゃると思いますので、その辺りも踏まえて御意見・御質問等を受けたいと思います。どなたからでも結構ですので、お願いいたします。

佐々木委員、何か御意見等がございますでしょうか。

○佐々木委員 選定基準は、これに沿った形で行われたということで良いかと思えます。

12月の現地調査に私は行けなかったんですけども、どのような手順、内容で現地調査をされたのか。学校のほうで対応された先生はどういった方で、どういった生徒さんがいたのかとか、内容を少し説明していただけたらなと思います。

○事務局 事務局のほうでも一緒に現地調査に行かせていただいておりますので、事務局から状況を御説明いたします。

まず、高校のほうで御対応いただきましたのは、校長先生、教頭先生、教務部長、進路部長、生徒指導部長などに対応いただいております。

今回は質問調査の項目についての資料はお手元に用意してございませんが、前回の部会で「異性への適応が苦手な生徒への対応状況」という点が違和感あるということで御指摘をいただいておりますので、柴山先生とも御相談させていただき、調査票のほうを修正しました。内容としては、「男女が共に学ぶ環境について」と。「男女比に差があることで影響はあるか」といった内容とか、「男女が共に学ぶ環境に馴染めず学校生活に支障をきたしている生徒はいないか」というような質問項目で調査をしております。

あと、調査にあたりましては、事前に調査票をお送りしまして、学校のほうで御記入いただいております。それらを事前に調査員の委員の方々に見ていただきまして、それを基にそれぞれの委員の方々から御質問していただくというような形で実施させていただいております。

○佐々木委員 そうすると、生徒代表の方からの聴き取りといったことは、まったくないんですね。

○事務局 はい。基本的にいま申し上げた校長先生以下、学校の先生から1時間程度お話をお聞きして、その後、校舎内での授業風景の見学を30分程度というような形で実施しており、生徒さんから直接ヒアリングということは、今回は行っておりません。

○柴山部会長 大学でこういう調査をするときには、抜き打ちで、その辺を歩いている生徒を捕まえて、「ちょっと、ちょっと…」という感じで聞いたりするんですが、今回はそういうふうな方法は取られなかったわけですね。

○羽田委員 具体的な学校なのであまり詳細なことは言えないのかもしれませんが、2校とも非常に施設も素晴らしくて、明るくて、私の高校生活よりもとても楽しそうでした。「いまの高校ってこうなっているんだな」というので、非常にびっくりして帰ってまいりました。

いろいろ懸念されたこと、例えば宮城野では女子生徒の比重が高いので心配したんですけども、実際に先生方にお聞きすると、「そのことに伴う問題がないことはない。運動系は少しやりにくいけれども、むしろ少数派の男子生徒はけなげに頑張っている」と。それから、同席された先生から、「特定の性だけに偏っていると、異性を意識しないがゆえの大胆さみたいなものが出てくる」と。礼儀というと変ですけど、「こんなことをしちゃいけない」というのが共学だとなくなってくる。(共学校では、)両方とも異性を意識しながら、男らしく、女らしくと。そういうところで、「すごくいい」と。実際に授業もいくつか見ましたが、熱心に参加していましたし、大変にうまくいっているんだなと思いました。

遠距離通学に伴う問題とか、下宿の問題とか、その辺も気になっていたんです。新幹線通学が一部あったけれども、これもそんなに多いわけではないですね。現実的に電車等で通える範囲で通っているので、全県一学区になったということで特に大きな変動が生じているわけではないという感じがいたしました。

教員のほうからは、中学校まで男女共学で来ているので、高校が共学になったからといってそのことで生徒が動揺するとか、何か差異があるわけではない。男女の比率が違うことも、それを知って来ているわけなのでそんなに大きな問題はないと。非常に安心と言うと変ですけど、懸念がだいぶ払拭されたかなと思います。

ただ、訪問の中で高校の先生からも出ましたけれども、これは中部の都市圏で、施設も立派なので基本的にうまくいっている。宮城野もいろいろな伝統を持っているのでうまくいっているけれども、これが周辺部のほうで同じように言えるかどうかです。地域のバラツキによって全県一学区なりの影響が強く出ている可能性があるので、この辺を視野にした対象校の選定が必要ではないかというふうに感じて帰ってまいりました。

以上でございます。

○柴山部会長 はい、ありがとうございます。

太宰委員、何か。

○太宰委員 私は女子の割合が非常に高い宮城野高校に行かせていただきましたが、入試の結果としてこの割合になっているということです。これがずっと続いているということは、たぶん宮城野高校という学校の一つの個性として築かれてきていると。そういう感じを受けました。

例えばですけども、これが男女半分ずつという取り方をしたらどういうふうになるの

かなというのは少し興味深かったところでございますけれども、結果としてこういうふうな一つの割合ですと来て、校風というか、学校の個性を築き上げているという感じを持ちました。

○柴山部会長 ありがとうございます。

やはり定量データからはわからない、定性データとしての非常にビビッドな情報・御感想がお聞きできていると。私もぜひ今度伺わせていただきたいと思います。

それで、齋藤委員から宮城野高校のほうでヒアリングを受けられる立場として、「何かこういうような工夫があったほうがよかったんじゃないか」というような御意見がございましたら、よろしく願いいたします。

○齋藤委員 では、委員ではなく、学校長としてお話をいたします。

対象校に選んでいただいたということで、まず事前のアンケート調査が入りました。それにお答えするにあたって、学校側として改めてここ数年のデータを集めました。お答えするにあたって学校なりの根拠を探したいというふうを考えまして、改めて「男女共学化」と「全県一学区化」が行われた年度辺りの数値を確認する機会が得られました。それは大変有り難かったなというふうに思います。

そして、そこで思わぬ事もいくつか出てまいりました。いまは「それはなぜだったのだろうか」という学校独自の検証もさらにすることになりましたので、対象校として選んでいただきましたことにまずは感謝申し上げます。

それから、おいでいただきましたときに本校の職員がお相手させていただいたのですが、職員も質問されることによって、改めてよく考えるということにもなり、調査を入れていただくことは学校にとってもいいなというふうに感じました。さまざまな観点からのお話をいただくことで改めて自分の学校を見直す機会にもなり、いま本校の様子を少しお話しいただきましたけれども、(本校の)特徴みたいなものが明らかになると。とてもいい機会を得て、感謝申し上げます。

あと、おいでいただくときに遠慮なく、ストレートに質問していただくということは、学校にとってとても有り難いことだなというふうに感じております。

以上でございます。

○柴山部会長 ありがとうございます。

評価される立場というのは、ともすればギクシャクする感じになるんですが、そうではなくて、両輪ということで、2つがうまく回っていけばいいかなというふうに思います。

それでは、そろそろ予定の時間になりました。ただいまの協議に基づいて現地調査を実施し、これから定性データを収集していきたいというふうに考えますが、よろしいでしょうか。

○高橋教育企画室長 いま羽田先生のほうからお話がありました仙台地区と地方のバランスです。それについては19校のうち9校が仙台管内で残りは地方ということで、バランスは取ってございます。

第1回部会でも少しお話をしましたけれども、もちろん基本的には委員の皆様には1回は行っていただこうと思っています。日程はそれぞれ早い時期にお示しして、参加できる・できないも含めて照会しながらやっていきたいと思っています。

ただ、委員の方々に全部というのものなかなか難しい部分もあります。12月までという限られた期間でございますので、御都合がつかないところについては、事務局のほうで行っていただきたいと思います。羽田先生から「地方の学校も行ってみたい」というお話もございましたので、それも事務局で十分勘案しながら進めていきたいと思っていますけれども、12月までに全部終了する予定で進めていくということでございます。1月、2月、3月は、学校側が入試で大変忙しいということなのでいったん中断しますけれども、5月ぐらいをめどに再開していきたいというふうに思っています。

○柴山部会長 ありがとうございます。

なるべく私も参りたいと思います。ただ、委員の先生方、それぞれスケジュールが非常にタイトだと思いますので、その辺りは事務局とどういうふうにするか相談させていただきながら進めていきたいというふうに思います。よろしく願いいたします。

それでは、ここまでで議事(3)の「①現地調査について」は終わります。

続きまして、「議事(2)『中高一貫教育』に関する検証について」のうち「②現状の把握(データ分析)」について御議論いただきたいと思っています。先ほど議決がございましたように、以降の議事につきましては非公開とさせていただきますので、傍聴者の皆様には誠に恐縮でございますが、御退席をお願いしたいというふうに存じます。よろしく願いいたします。

3 議事(2)「中高一貫教育」に関する検証について ②現状の把握(データ分析)

*議事(2)②は、非公開により審議を行いました。

*議事の概要

ア) 主に次のデータについて、学校別に整理し、年次推移を確認するとともに、県平均等をベンチマークに特徴を分析した。

県立中学校の出身小学校市町村別生徒数(中学校1年次)、県立中学校の出願倍率の推移、県立中学校の出願者男女比、県立中学校の生徒男女比、県立中学校卒業時の進路状況、連携中学校卒業生の志津川高校への進学率、志津川高校の連携中学校出身者割合、連携型入試出願倍率、連携型入試に係る男女比、中途退学率(高校)、不

登校率（高校）、スクールカウンセラーへの相談件数（高校）、部活動の加入状況（高校）、学校評価（高校の生徒）、みやぎ学力状況調査（国数英）の結果（高校2年生）、みやぎ学力状況調査意識調査（高校1～2年生）

イ) 主な論点は次のとおり。

- 高校のデータがほとんどであり、中学校のデータが少ないため中高の実態が把握できない。中学校段階のデータが必要である。
- 生徒の状況を中心のデータになっているが、これを見るときに、学校がどのような取組をして、各学校の生徒の状況に差が出てきているのか、学校の取組と生徒の状況の繋がりが見えないので、学校の取組なども併せて検証する必要がある。

3 議事（3）「男女共学化」及び「全県一学区化」に関する検証について ②現状の把握（データ分析）

*議事（3）②は、非公開により審議を行いました。

*議事の概要

ア) 主に次のデータについて、学校のタイプ別※及び学校別に整理し、年次推移を確認するとともに、学校のタイプ別・学校別の特徴を分析した。

※男女共学化…統合による共学化校・旧男子校・旧女子校

全県一学区化…進路指導拠点校（仙台市）、進路指導重点校（仙台市以外）、英語科・理数科設置校

① 男女共学化

一般入試出願倍率、1年次生徒の男女比、生徒の学校評価、不登校率、中途退学率、スクールカウンセラーへの相談件数、運動施設の状況、部活動の加入状況

② 全県一学区化

一般入試出願倍率、同一地区の公立高校（全日制課程）への進学割合、みやぎ学力状況調査（国数英）の結果、部活動の加入状況、生徒の学校評価

イ) 主な論点は次のとおり。

- 入試の出願倍率については、中学校の生徒数と募集定員との関係であるから、単純に出願倍率だけで上がった、下がったは見られない。各年度の募集定員のデータも追加する必要がある。
- 「男女共学化」及び「全県一学区化」の状況については、今後も継続してデータを見て行くこととしており、さらに平成25年度のデータを追加した形で検証を進めて行く

4 閉会

○進行 限られた時間の中ではありましたが、御協議いただきましてありがとうございます。

次回の部会につきましては、3月28日木曜日の午後1時半からを予定しております。議事につきましては部会長と相談をさせていただいた上で、事務局から改めて御連絡したいと考えておりますので、よろしくお願いたします。

また、本日頂戴した御意見以外に何か御意見等がございましたら、お手元の用紙をお使しいただいて、事務局あてに御連絡をいただきますようお願いをいたします。

それでは、以上をもちまして第2回高校教育改革検証部会を終了させていただきます。どうも御苦労さまでございました。